



## 「環境保全」と「経済発展」

頭取 大道 良夫

「滋賀県湖南省経済交流団」の一員として、8月9日から12日まで中国・湖南省を訪問しました。短期間でしたが、密度が濃く、得るところが多い有意義な訪問でした。

滋賀県と湖南省は、琵琶湖と洞庭湖の「湖」が取り持つ縁で1983年(昭和58年)に友好関係を結んで以来、環境、観光、青少年、経済など多方面で相互交流を深めてきました。

今回は、友好交流の一層の促進を目的に、滋賀県代表団(三日月知事、西村県議会議長)をはじめ、経済交流団、県民友好交流団、高校生交流団など総勢約100名が訪問しました。

互いに国を代表する湖を有する滋賀県と湖南省は、今日までの産業発展構造も類似、ともに豊富な水資源を生かした農業振興からはじまり、水陸交通の要所という利点を活かした工業へと発展してきました。

しかし今、琵琶湖の4倍以上の面積を有する洞庭湖では、流域一帯の経済発展に伴い、工業排水、農業排水に起因する水質汚濁が進み、漁業などに深刻な影響が出ています。

今回の交流では、湖南省側から「経済発展と環境保全のどちらを重視すべきか」「経済と環境はいかに両立できるか」との発言が相次ぎました。この「古くて新しい」質問に接するたび、事態の深刻さを思い、琵琶湖で培ってきた水質浄化の技

術・知恵で今こそ洞庭湖の「水質改善モデル作り」の支援を、と願った次第です。

一方、「経済発展」については、湖南省側から「重点産業の自動車部品関連や精密機械、省エネ・省資源、農業加工の分野にとくに力を注ぎたい」と発言がありました。この分野では、当行のお取引先が「強み」とされる技術も多く、今後、連携を一層深めていける可能性を強く感じました。

3日目には、交流団ごとに交流会が持たれ、私が出席した「湖南・滋賀県経済貿易交流会」では、双方のメンバーの間で活発な意見交換が展開されました。

なかでも、湖南省工商連・湯書記は「滋賀には琵琶湖の水質を改善した世界の手本となる技術がある。学ばねばならない」、同省商務庁・羅副庁長は「大手自動車メーカーの進出に伴い自動車部品製造分野の地場中小企業の発展が著しい。この分野で連携ができればお互いにメリットは大きい」「湖南省は農産物、畜産物が豊富だが、加工技術はまだまだ。この方面でも滋賀県を重要なパートナーとして期待している」とそれぞれ発言、「これから」への熱い思いを感じました。

この訪問を終え、32年間の友好交流を基本に今後、県の行政と経済界の連携で両県の経済交流のさらなる実を、と改めて心した次第です。皆さんもぜひ湖南省の「熱気」を感じられては。